



2021年7月21日

多摩川スピードウェイの会

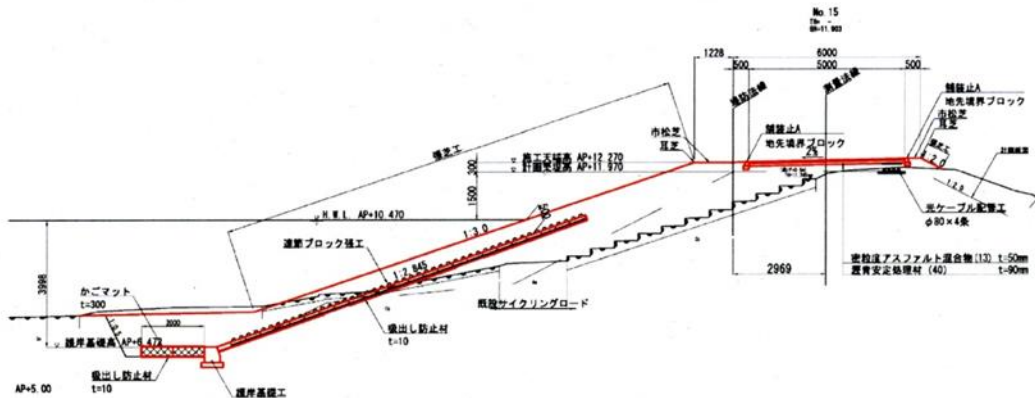
日本初の常設サーキット『多摩川スピードウェイ』観客席の 取り壊し危機に伴う緊急声明と、保全へのご協力をお願い

1936年に開場した、日本初の常設サーキット『多摩川スピードウェイ』の跡地保存と、その歴史的意義の研究・情報発信を行う任意団体『多摩川スピードウェイの会』（会長 片山 光夫）は、跡地に現存する当時の観客席が急な取り壊しの危機にあり、その保全に向けた関係各位のご協力・ご支援を広く求めるべく緊急声明を発表いたします。

●現在計画されている工事について

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所は、多摩川河川敷の堤防強化工事を順次進めており、多摩川スピードウェイの跡地がある丸子橋付近（川崎市・上丸子天神町地区）について、2021年10月頃に着工する旨、7月2日に初めて通達がなされました。

工事計画は、現存する観客席を完全に取り壊し、盛り土や接続ブロックにより新たな堤防を造成する内容です。



(図1) 京浜河川事務所より提示された工事計画における、堤防の断面図。

赤線（左側の斜面）が新たな堤防、階段状の斜面（右側）は現存する観客席の位置。



●当会の方針と保全に向けたご協力のお願い

国交省による一級河川の治水事業は公益性・流域住民の安全のため、最優先で実施されるべきものです。その一方で、本跡地と観客席の日本の自動車産業発展における産業遺産的な重要性、さらに川崎市の行政ビジョン『[川崎市新多摩川プラン](#)』で跡地の保存が明言されていることに鑑み、観客席の保全と治水事業の「両立」が図られるべきものと考えます。この方針のもと、現在提示されている一方的な取り壊しではなく、治水と保全との「両立」を実現するべく、当会より国交省京浜河川事務所に対し、7月12日の会議席上で工事計画見直しの申し入れを行いました。

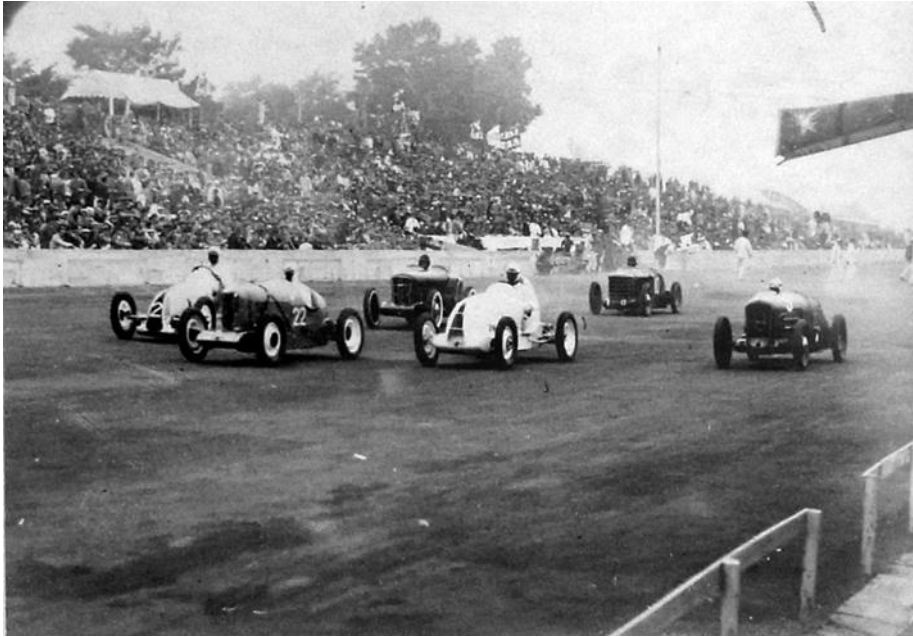
その際に、当会は観客席の部分的な移設などの妥協案も提示しましたが、担当官は現工事計画を決定事項として伝えるのみで、保全に向けた他の工法については検討・協議の意志さえ示していません。着工までわずか3ヶ月前に通達したことで明らかなように、事後通知による時間切れで、実質的な検討・見直し協議の打ち切りを意図した進め方は、文化財保護的な観点で許容されるものではなく、強く抗議の意を表します。加えて、京浜河川事務所『[多摩川緊急治水対策プロジェクト](#)』の対象に、本跡地の堤防は含まれておらず、現計画時期に慌てて工事を強行する必要性にも疑問を呈するものであります。

第2次世界大戦以前に建設され、現存する観客席は世界的に極めて稀有です。そのような産業遺産・文化財に相当するものの取り壊しには、慎重な検討・協議が求められるところ、その過程がスキップされていることに、最大の問題が内包されていると考えます。

つきましては、この貴重な観客席が取り壊しの危機にあることのご認識と、保全との「両立」に向けた計画見直しへのご支持・ご支援の表明、ならびに行政各所への働きかけを賜りたく、関係各位のご協力をお願い申し上げます。

●『多摩川スピードウェイ』について

1936年に丸子橋近くの多摩川河川敷（川崎市）に開場した、日本初の常設サーキットです。1周1.2kmのオーバル（楕円型）コースとともに、堤防には3万人を収容するコンクリート製の観客席が設置されました。同年6月7日の「全日本自動車競争大會」を皮切りに、主に第2次世界大戦前の時期にレースが開催され、本田宗一郎氏をはじめ、後年の日本の自動車産業の発展で主導的な役割を果たした人物・企業が多く参加しています。レースで磨かれた技術や、育まれた人財による後の貢献は計り知れないものがあり、それゆえに当会は、本跡地と観客席が産業遺産として最大限に保全されるべきものと考えます。また世界的にみても、第2次世界大戦以前に建設されたサーキットで、当時の観客席が現存している例は極めて稀有です。



(写真 1) 全日本自動車競走大会（1937 年 5 月 16 日）における国産小型車レースのスタートシーン。観衆で満員の観客席は、現存するそのものである。

● 『多摩川スピードウェイの会』 について

多摩川スピードウェイの跡地保存と日本のモータースポーツ黎明期の歴史的意義の研究・情報発信を行う任意団体です。当会の活動を通じて 2016 年 3 月に川崎市が発表した行政ビジョン『川崎市新多摩川プラン』に「多摩川スピードウェイ跡地の保存」が採択・明言され、さらに当会が川崎市に寄贈し、観客席に設置した『開場 80 周年記念プレート』の除幕式を同年 5 月に挙行するなど、跡地保存に関する活動、情報提供、展示・講演等を継続的に実施しております。

- ・ 当会 Web サイト（Facebook ページ）：
<https://www.facebook.com/TamagawaSpeedwaySociety>
- ・ 当会へのお問合せ先（電子メール）：
tamagawaspeedwaypr@gmail.com

以上